

II 基本構想

1. 目指す都市像
2. まちづくりの基本理念
3. 計画期間
4. まちづくりの目標と方向性
5. 将来人口

01

目指す都市像

計画期間における本市の目指す都市像を、以下のとおり定めます。

うみ やしろ
海と社に育まれる
楽しい



これまで塩竈は、海をはじめとした自然や豊かな歴史・文化に培われた人々の暮らしによって育まれてきました。個性豊かで調和のとれた持続可能なまちづくりに向けて、目指す都市像に『海と社に育まれる楽しい塩竈』を掲げ、多彩な魅力を生かした楽しさあふれるみなとまちを、市民をはじめとした多くの方々と共に創り上げます。

02

まちづくりの基本理念

次のとおり基本理念を定め、まちづくりに取り組みます。

今ある個性を大切に、みんなでつなぎ合わせて、新しい魅力を創り上げていく、未来に続くまちづくり

03

計画期間

基本構想の計画期間は、令和4年度(2022年度)を初年度として、令和13年度(2031年度)を目標年度とします。

04

まちづくりの目標と方向性

『海と社に育まれる楽しい塩竈』の実現に向けて、まちづくりの目標と方向性を定めます。

分野 1 子ども	【目 標】 子どもたちの笑い声があふれるまち 【方向性】 ～健やかに育つ・育てる環境づくり～
分野 2 福 祉	【目 標】 みんなが生き生きしているまち 【方向性】 ～健康で安心して暮らせる地域づくり～
分野 3 生 活	【目 標】 快適に住み続けられるまち 【方向性】 ～安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくり～
分野 4 産 業	【目 標】 活気があり、誇りをもって働いている人が たくさんいるまち 【方向性】 ～活力に満ちた産業づくり～
分野 5 交 流	【目 標】 何度でも訪れたいまち 【方向性】 ～観光交流による賑わいづくり～
分野 6 文 化	【目 標】 日常に彩りがあるまち 【方向性】 ～生涯にわたって学びあえる風土づくり～
分野 7 協 働	【目 標】 みんなが主役になれるまち 【方向性】 ～さまざまな個性がつながり、役割を發揮できる環境づくり～
分野 8 浦戸諸島	【目 標】 自然と調和した和やかな暮らしと癒しがあるしま 【方向性】 ～人々が住まい・集える持続可能な島づくり～



基本構想



未来に続く8つの塩竈物語

まちづくりの目標と方向性



子どもたちの笑い声があふれるまち



一時期は子どもの数がどんどん少なくなっているって聞いていたけど、最近はずっと増えてきているのかな。産む前から大きくなるまで、ずっと子育てを応援してくれるまちだから、最近もまた、小さな子のいる家族が近所に引っ越して来みたい。

学校では子どもたち同士での学び合いが広がっていて、明るくて元気な子どもたちが多くなったという話も聞こえてくる。日ごろから子どもとふれあう時間を大切にする家庭も増えてきて、元気にあいさつができる子や朝ごはんをちゃんと食べてくる子が多くなった。

地域の人も子どもと関わる機会が増えていて、自分の子どもや孫のように可愛がっているから、まちのあちこちで子どもたちの元気なあいさつや笑い声があふれるようになった。こういう環境が続くことで、ふるさとを大切に思う大人が増えていくんだろうなあ。



まちづくりの方向性

～健やかに育つ・育てる環境づくり～

施策の柱

(1) 「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築

- ① 子育て世代包括支援センターなどが中心となって、関係機関とのつながりを深め、子どもたち一人一人とその保護者を支援し、安心して妊娠・出産・子育てができるまちをつくります。
- ② 保育サービスをはじめとした子育て支援の充実と、子育てしやすい就業環境づくりに向けて企業と共同に取り組み、働きながら安心して子育てできるまちをつくります。
- ③ 境遇や環境によって、健やかな成長が損なわれないよう、全ての子どもたちの生活、成長、学びを支援します。

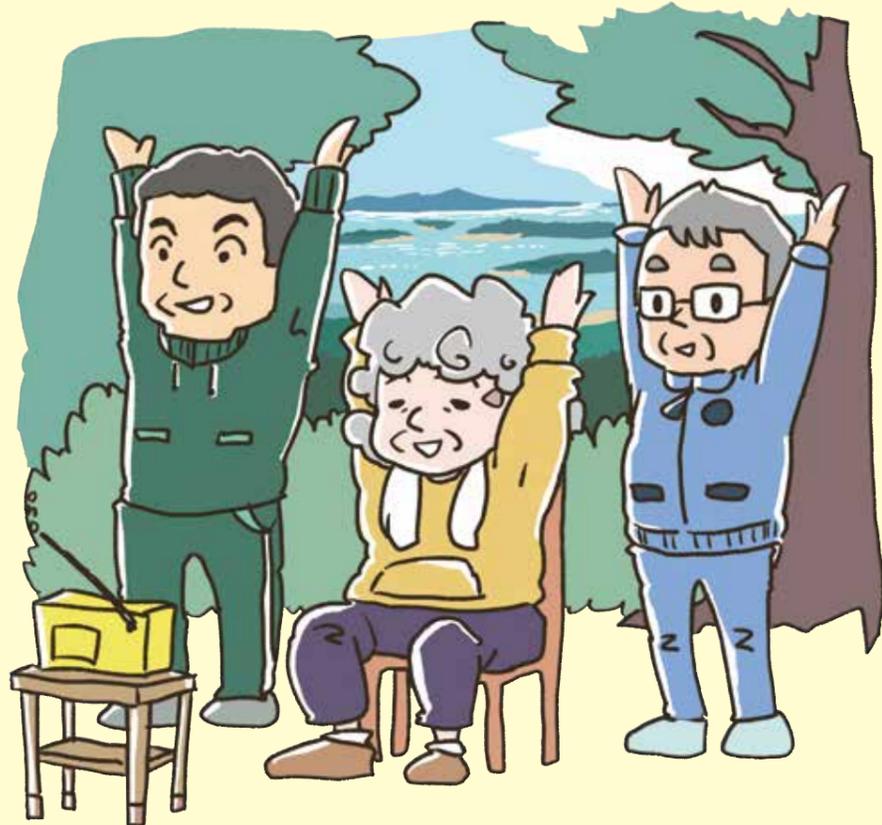
(2) 未来を担う子どもを育むための学習環境の充実

- ① 一人一人の個性を生かす学びや協同的な学びの充実により、子どもたちの夢に向かって頑張る力や健やかな心と体を育みます。
- ② 豊かな歴史・文化とのふれあいや、社会・世界に目を向けた学びの推進により、子どもたちの「郷土を愛する心」や「未来を担う力」を育みます。
- ③ ICT(情報通信技術)の積極的な活用により、子どもたちの創造性や可能性を広げるとともに、安全・安心で快適な教育環境をつくります。

(3) 地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

- ① 子どもたちの健やかな成長に向けて、だれでも安心して過ごせる居場所づくりを充実させるなど、学校・家庭・地域が連携して子どもの育ちと子育てを支えます。
- ② 地域と力を合わせた見守り体制の充実や環境整備などに取り組み、子どもたちが安心して安全に過ごせるまちをつくります。
- ③ 全ての教育の出発点である家庭教育を地域と連携して応援し、自立心や思いやりのある子どもたちを育みます。

みんなが生き生きしているまち



長年勤めた会社を退職してしばらく経つけど、仕事をしている時より忙しくて楽しくなるなんて思いもしなかったな。健康にも気をつけるようになって、ご近所さんとのウォーキングは習慣になっているし、日頃の食生活では、塩竈の食材を取り入れたバランスの良い食事を心がけている。そして、サークル活動やボランティア活動、アルバイトに孫のお世話、毎日が充実している。活動を通じて新しい友達も増え、いろいろ頼りにされるのはとても嬉しい。仲間がいて、生きがいや役割があると、いつまでも元気でいられる気がする。

それにこのまちには、病院の先生や民生委員さん、保健師さん、地域包括支援センターの皆さんなど、頼りになる方々がたくさんいる。

年も年だから、不安や悩みが無いわけではないけど、地域全体で見守られている安心感があるので、このまちでずっと健康で、生き生き楽しく暮らしていきたいと思う。



まちづくりの方向性

～健康で安心して暮らせる地域づくり～

施策の柱

(1) みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実

- ①健康で生きがいのある暮らしや、地域と協働した支え合いを充実させ、高齢になっても住み慣れた場所で生き生きと過ごせるまちをつくります。
- ②障がいのある人や配慮を必要とする人も、自分らしく生きがいを持ち、みんなが共に安心して暮らせるまちをつくります。
- ③生活に困っている人も安心して暮らせるよう、相談支援体制を充実させ、みんなが自立し生き生きと暮らせるまちをつくります。
- ④みんながお互いを認め合いながら、支え合うまちをつくります。

(2) 健康増進と健康寿命の延伸による元気の創出

- ①子どもから高齢者までのライフステージに応じた「からだの健康づくり」と、相談支援体制の充実や関係機関との連携による「こころの健康づくり」に取り組み、みんなが元気なまちをつくります。
- ②地域資源を生かした食の楽しさを通じて食育への関心を高めるとともに、食育に取り組める環境づくりを行い、「食から始まる健康づくり」を推進します。

(3) 安心できる地域医療体制の充実

- ①医療と介護の連携を推進し、超高齢社会にも対応した地域医療体制の構築に努めます。
- ②医師会や歯科医師会、薬剤師会、近隣市町等との連携をさらに強化し、救急医療体制の充実を図ります。
- ③市立病院については、地域密着型の医療提供に努め、地域医療の中心的な役割を果たすとともに、医療の枠を超えて、介護や保健分野と緊密に連携しながら、健康で安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

快適に住み続けられるまち



塩竈って本当に住みやすいまちだと思う。豊かな自然が大切にされ、コンパクトでまちなかにはいろんな施設があるし、バリアフリー化も進んでいて、みんなが快適に過ごすことができている。電車とバスの乗り継ぎもスムーズで、住んでいる人だけじゃなくて観光に来る友達を案内するのも便利。車を運転しなくなった父も不自由なく出かけられるし、事故や事件の話もあまり聞かなくなったから、より安心して暮らせるまちになってきた。

東日本大震災の教訓から、町内の皆さんの防災意識はますます高まっているし、どんな災害があってもみんなで力を合わせて乗り越えていけるっていう安心感が芽生えてきた。

これからも、大好きな塩竈の風景を未来につなげていくために、自分にできることを進んでやっていこうと思う。

まちづくりの方向性

～安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくり～

施策の柱

(1) 災害などに対する「強さ」と「しなやかさ」を持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくり

- ①東日本大震災での教訓を生かし、日頃から災害を「我が事」として捉えるなど、市民一人一人の防災・減災意識を高めるとともに、地域の災害リスクを踏まえた都市基盤の整備や防災体制の充実を図るなど、地域防災力の強化に努めます。
- ②犯罪が起こりにくいまちづくりを実現するため、関係機関と連携・協力し、「意識づくり」、「地域づくり」、「環境づくり」に取り組みます。
- ③新型コロナウイルスの発生に備えるとともに、発生した場合には、市民の生命や健康、生活、地域経済を守るため、状況に応じた適切な対策を講じます。

(2) コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成

- ①「住んでいたい・住んでみたいまち」を目指し、コンパクトで利便性が高く、すぐれた景観を有する地域特性を生かした、安全・快適で魅力のある住環境整備に努めます。
- ②市民にとって身近な存在である公園については、多世代での交流や健康づくりの拠点として、気軽に集える憩いの空間の創出に努めます。
- ③安全で安心な生活基盤の確保に向けて、道路や上下水道の適切な維持管理に努めるとともに、施設等の長寿命化を計画的に進めます。また、公共施設については、長期的な視点から、更新や統廃合、長寿命化を進めます。
- ④恵まれた交通環境を生かし、さまざまな交通機関が行き交う駅の機能強化や、各交通機関との連携強化に努めます。また、広域化の視点や新技術の活用を検討などにより、公共交通体系のさらなる充実を図ります。

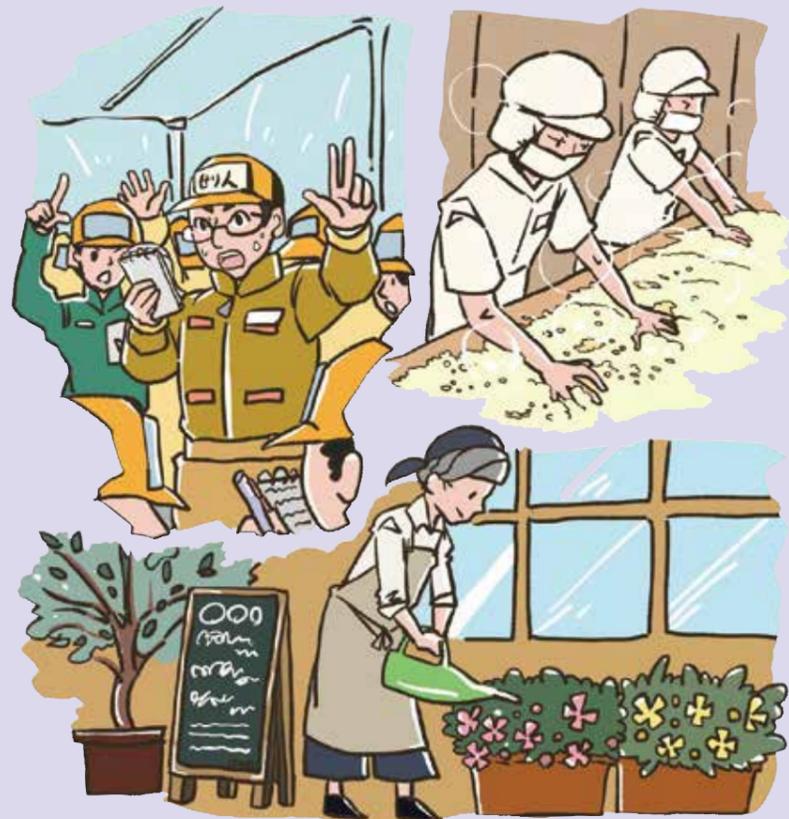
(3) 豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成

- ①自然との共生を目指し、市民・事業者・地域と連携を図りながら、自然環境の保全と活用に努め、みどりと海を守り育て、生かしていく取組を推進します。
- ②ごみの減量化と適正な処理、「3R(スリーアール)^{※15}」活動の推進や再生可能エネルギーの利活用、温室効果ガスの排出抑制に努め、循環型社会の早期実現に向けた取組を促進します。

※15【3R(スリーアール)】環境と経済が両立した循環型社会を形成していくための3つの取組の頭文字をとったものであり、リデュース(廃棄物の発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)の順番で取り組むことが求められている。



活気があり、誇りをもって働いている人が たくさんいるまち



塩竈には、誇りをもって働いている人がたくさんいる。いろいろな人たちがお互いに協力し合ったり競い合ったりして、まちにも活気があふれている。自慢の豊かな食文化にもますます磨きがかかって、「みやぎの台所」って自信を持って言えるまちになってきた。私もそんなまちを支える一人だって思うと、とても誇らしい。

最近、ベイエリアには、若い人たちが働きたくなる企業が進出しはじめていて、地元の人たちの働く場としてだけでなく、塩竈を巣立った子どもたちが戻ってくるきっかけにもなっている。

そして、まちのあちらこちらに個性的な新しいお店ができて、商店街には賑わいも増えてきた。うちの子どもも「いつかお父さんとお母さんのお店を継ぐんだ。」なんて言って、本当に頼もしくなってきた。



まちづくりの方向性

～活力に満ちた産業づくり～

施策の柱

(1) 数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造

- ① 多彩な食の地域資源を生かし、個々の魅力の磨き上げと食産業の連携強化により、新たな魅力を創造する「食のまちづくり」を進めます。
- ② 魚市場を拠点とした生産・加工・流通におけるブランド力の向上と新たな価値の創造により、水産品・水産加工品の流通拡大を図り、地域経済の活性化につなげます。

(2) 商工業者の持続的な経営安定や事業承継・新規創業への支援の充実による地域活力の向上

- ① 事業承継と創業支援のさらなる充実に向けて、相談体制などの強化に努め、チャレンジしたくなるまちを目指します。
- ② 商工業者の経営安定化に向けて、商業関係団体や金融機関等との連携を強化し、地域経済の基盤強化に努めます。
- ③ 市民から親しまれ、個店の魅力がつながる商店街づくりを支援します。

(3) 海とみなとを生かした活力づくりや新たな産業と若者も満足できる雇用の創出

- ① 海辺空間の一体的な活用による海・みなとへの市民の愛着を深める取組とともに、物流拠点をはじめとした多面的な本市の港湾機能の特性を生かし、塩釜港区の利活用を促進します。
- ② 地域特性を踏まえた雇用環境の整備や若者も魅力を感じる企業誘致に努めるとともに、特有の地域課題の解決に向けた実証実験の場の提供など、産業創出の“種”を大学や企業などと共に生み出します。

何度でも訪れたいまち



塩竈は、コンパクトだけど一日たっぷり過ごしても時間が足りなくなる不思議なまち。「塩竈を案内して」と言われると、見せたい場所がたくさんあっていつも迷ってしまう。鹽竈神社やベイエリア、仲卸市場に浦戸諸島、美味しいお寿司とお酒、それにスイーツまで…。魅力は観光スポットや食べ物だけじゃなく、心からのおもてなしもその一つ。自信を持って「またおいで！」って言えるまちだと思う。

いろいろなところで塩竈のことが取り上げられていて、訪れてみたいまちになっているのもうなずける。

この前遊びに来た県外の友達には、オリジナルの「食のスペシャルコース」を案内したら、「またぜひ来たい!」と、すごく満足して帰っていった。今度来たら、また別な塩竈を見せてあげようかな。

まちづくりの方向性

～観光交流による賑わいづくり～

施策の柱

(1) 地域資源を最大限活用した観光メニューの創出

- ①観光客の視点に立ち、「鹽竈神社」「門前町」「食」など、歴史・文化をはじめとした地域資源を結びつけることにより、ストーリー性があり、塩竈でしか味わえない「訪れたい」「また来たい」と思われる観光メニューの創出に努めます。
- ②観光の顔となる「鹽竈神社と門前町地区」、「ベイエリアとマリングート地区」、「市場地区」、「浦戸諸島」の魅力の磨き上げと回遊性の向上に努め、観光消費の拡大を図ります。

(2) 塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・広域連携による交流人口の拡大

- ①塩竈ブランドを確立し、さまざまな情報発信手段を幅広く活用して、年代・性別・地域などのターゲットに応じた戦略的なプロモーションに取り組むことにより、集客と誘客を拡大していきます。
- ②市民・団体・企業・行政が一体となった「人づくり」・「体制づくり」により、「笑顔でのおもてなし」の輪を広げることで、観光のまちづくりを推進するとともに、シビックプライドの醸成を図ります。
- ③県や関係自治体との広域での連携強化により発信力を高め、交流人口の拡大に努めます。



日常に彩りがあるまち



塩竈は絵になるまち。歴史ある建物やまち並みが、みんなの手で大切にされているし、きれいな海とたくさんの緑がある。

小学生の時、美術館で観た絵に感動して、絵が大好きになった。それから、塩竈の何気ない風景をたくさん描いている。このまちのいろんな一面を見て、あらためて塩竈はいくつもの物語が重なり合って築かれたまちなんだと実感している。

この前、神社で絵を描いていたら、おじいさんから声をかけられ、今まで知らなかった塩竈の歴史を聞くことができた。絵を描くことを通じて、まちのことを深く知ることができ、人とのつながりが生まれるきっかけにもなっている。

最近では、芸術やスポーツなど、いろんな分野で活躍する人たちも増えてきて、ますます誇らしいまちになったし、私もその文化を引き継いでいく一人になりたいと思う。そしてそんな塩竈を未来につないでいきたい。

まちづくりの方向性

～生涯にわたって学びあえる風土づくり～

施策の柱

(1) 豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実

①先人達が築き、大切にしてきた塩竈の歴史や文化を市民共有の財産として守り、まちづくりや学びの資源として生かしていくとともに、次世代に継承することにより、塩竈に息づく歴史・文化の保存とシビックプライドの醸成を図ります。

(2) 生活にうらおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開

①だれでも気軽に生涯学習や生涯スポーツを楽しめるよう、快適な環境をつくるとともに、学んだ成果を生かせる機会やスポーツに親しめる機会を充実させます。
②生涯学習や生涯スポーツを通じて地域とのつながりや絆を深め、一人一人の生きがい創出や地域の活力向上を図ります。

(3) 芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

①幅広い世代の市民が多様で良質な芸術文化に触れることのできる機会を提供し、創造性豊かな人材の育成を支援します。
②競技スポーツの開催支援やアスリートとふれあう機会の充実などを通じて、スポーツで頑張る市民や団体を応援します。
③芸術・文化・スポーツなど、多様な分野における市民主体の取組を支援し、文化の創造や発信を促進します。

みんなが主役になれるまち



最近では、まちづくりに関わる人が前よりも増えてきたように感じる。

休日に駅前の花壇に花を植えてくれる近所の人たちや外国人の方に日本語を教えているボランティアの人たち。まち歩き調査をする大学生や公園の清掃に取り組んでいる企業の人たち。

塩竈に住む人、働いている人、関わりのある人たちが、持っている力を発揮しながら手を取り合ってまちづくりを進めている。

文化や価値観の違いを尊重し合い、お互いが協力し合うことで魅力的なまちになっていく。だからこそ、一人一人がまちの主役で、「人」を大切にすることのまちを、みんなでもっと良くしていきたい。



まちづくりの方向性

～さまざまな個性がつながり、役割を発揮できる環境づくり～

施策の柱

(1) 塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実

- ①身近なまちづくり活動への理解を深め、関わりたいと思える環境をつくります。
- ②市民活動団体との協働・連携のさらなる推進のため、まちづくりへの参画促進や市民活動団体間の連携強化に努めます。
- ③地域コミュニティを支える町内会などのつながりを深めるとともに、相談・支援体制の充実や、気軽に集えて活動しやすい環境づくりに努めます。

(2) 大学や企業等との交流・連携・共創と多様化する社会への理解促進

- ①大学・企業等との相互の交流やつながりを深め、それぞれの幅広い知見から新たな価値を創出する「協働・共創によるまちづくり」を進めます。
- ②男女共同参画や一人一人の多様性について学ぶ機会を充実し、だれでも等しくさまざまな場で活躍できる社会の実現を図ります。
- ③市内に住んでいる外国人との地域交流活動への支援や海外との交流を通して、多文化共生^{※16}社会への理解促進を図ります。

(3) 効果的・効率的で透明性の高い行政経営

- ①さまざまな情報伝達手段を活用して効果的な情報発信を行うとともに、市政運営に対して積極的にだれもが意見を言えるよう、双方向の情報共有に努め、パートナーシップによる協働のまちづくりを進めます。
- ②行財政改革の推進による安定的な財政運営と、市民から信頼される透明性の高い行政運営により、市民の視点に立ったきめ細やかで持続可能な行政経営を展開します。
- ③他市町との連携を深めることにより、共通する課題の解決や行政サービスの向上に努め、多様化・高度化する住民ニーズに的確に対応していきます。

※16【多文化共生】国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

自然と調和した 和やかな暮らしと癒しがあるしま



船の中や通学路では、相変わらず子どもたちの元気な声が響いている。最近では、島内での福祉サービスも充実してきて、お年寄りも安心して住み続けられる島になってきたと思う。

そして何よりも、「島じかん」なんて呼ばれるくらい、ゆったりと心穏やかに生活できるから、とても贅沢なことだと思っている。

そんな癒しを求めて、浦戸には色々な人が訪れる。仕事をする人、遊びに来る人、そして新しく住み始める人。たくさん人が来ると、浦戸らしさがなくなるようで不安に思ったこともあったけど、みんなが島の自然や生活を気に入って大切にしてくれているのがわかるから、来てもらうのが楽しみだし、ほっとしている。

浦戸でとれる海産物や農産物、つくられている加工品が好評で、新たな商品の開発に向けても、島全体で盛り上がっている。

そういえば、この前友達に浦戸でとれたものを送ったら、「こんな美味しいものありがとう！」って言ってすごく喜んでくれた。当たり前と思っていたものが、実は大きな魅力になっているなんて・・・そんな浦戸暮らしを誇らしく思っている。



まちづくりの方向性

～人々が住まい・集える持続可能な島づくり～

施策の柱

(1) 健康で安心して住み続けられる生活環境の充実

- ①市営汽船は、島民の生活の足、児童生徒の学習室、地元産品の輸送手段、来訪者の非日常への移動装置などのさまざまな役割を担っており、浦戸の振興に果たす意義を重視しながら、利便性の確保と経営基盤の安定化の両立を図っていきます。
- ②いつまでも安心して島に住み続けられるよう、地域包括支援センター^{※17}と医療機関、福祉事業所の連携を深め、安定的な医療・福祉サービスなどを受けられる体制の充実を図ります。
- ③地域コミュニティを維持するため、移住を希望する人を受け入れられる環境を整えるとともに、浦戸ならではの特色ある教育の充実に努めます。
- ④先端技術の活用について検討を深め、楽しく豊かな生活を送れる島づくりを進めます。

(2) 浦戸産品(海産物・農産物)の高付加価値化や担い手育成による産業の振興

- ①浦戸のブランド化の促進と産品の6次産業化^{※18}拡大の取組を支援し、浦戸の暮らしを支える海産物や農産物の魅力をさらに高めます。
- ②漁業と農業を浦戸の持続可能な生業とするため、浦戸産品の魅力を広く発信するとともに、1次産業従事者や関係機関との連携を深め、担い手の確保や育成に努めます。

(3) 浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進

- ①特別名勝松島に指定されている美しい海や島々の景観、人々に育まれてきた歴史や文化の保全と継承に努め、島ごとの個性ある地域資源をつなぎ合わせた交流活動を推進します。
- ②島の人々や民間事業者等と連携し、訪れる人々に浦戸ならではの癒しや楽しさを与えられる観光メニューを創出するとともに、受入体制を充実させ、交流人口の拡大に努めます。
- ③浦戸ならではの自然豊かな環境を生かして、教育旅行やワーケーション^{※19}の場などに活用することができるよう、時代のニーズに沿った受入環境の整備を推進します。

※17【地域包括支援センター】市町村が設置主体となり、地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防の必要な援助などを行い、高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする、地域包括ケア実現に向けた中核的な機関。
 ※18【6次産業化】農林水産物を収穫・漁獲(第1次産業)するだけでなく、加工(第2次産業)し、流通・販売(第3次産業)まで手がけること。「6次産業」の6は、「1次産業の1」×「2次産業の2」×「3次産業の3」のかけ算の6を意味している。
 ※19【ワーケーション】「ワーク」(労働)と「バケーション」(休暇)を組み合わせた造語。観光地やリゾート地でテレワーク(リモートワーク)などを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方。

05

将来人口

本市の将来人口を令和13年(2031年)において『50,000人』と設定します。

人口減少を克服し、少子高齢化の進行に歯止めをかけるため、子育て世帯の移住・定住を促進するとともに、子どもを産み育てやすい環境を整えることで、持続可能なまちを目指します。

令和13年 将来人口(住民基本台帳人口12月末)			
50,000人	内 訳	年少人口 (0歳～14歳)	5,900人
		生産年齢人口 (15歳～64歳)	26,400人
		老年人口 (65歳以上)	17,700人

